

NO.M-5912

マリン用燃料計検出部取扱い説明書

1. 燃料タンクの大きさに応じて、検出部のフレームとアームの調整により、自由に取付け出来る様に設計されております。各リイズは図1.を参照願います。

2. フレームの概要及び調整範囲

a) 概要

フレームは、ネジ(A)にて取付けられており、このネジ(A)をゆるめることにより、フレームは任意の長さに調整出来ます。又、フレームには、ネジ(A)の為に5箇所有り、必要に応じた長さを決め、この穴にて締直して下さい。

b) 調整範囲

調整範囲は、図1.の $^{\circ}L_1$ にて170MMから270MMまで可能です。170MM以下を要求される場合は、図1.の(B)の切断により最低70MM迄調整出来ます。尚、各長さの特性は、図2.に示します。

3. フロートアームの概要及び調整範囲

a) 概要

フロートアームは、ネジ(C)にて取付けられており、このネジ(C)をゆるめる事により、フロートアームは任意の長さに調整出来ます。調整後はシャフトの中心より約20MM残し切断して下さい。

b) 調整範囲

調整範囲は、図1.の $^{\circ}L_2$ によりなされ、F点、E点はタンク上部、底部表面より30MM離れた位置になるようにして下さい。

c) フロートアームの振れ角度は110度で、 $\frac{1}{2}$ レベルを基準に上下への移動によって検出されます。

4. フロート位置による抵抗値

フロート位置	F	$\frac{1}{2}$	E
抵抗値(Ω)	0	50	150

図1.

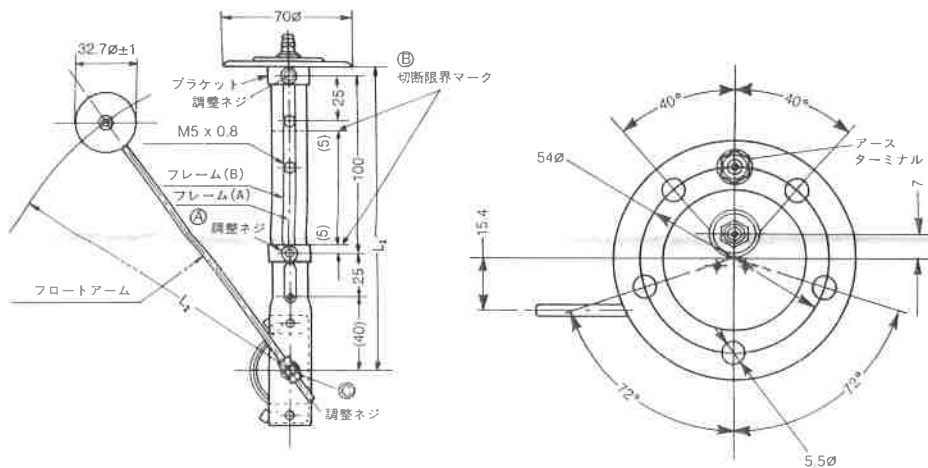
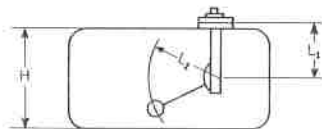


図2.



例題

- タンク深さ300(MM)の場合
- フロートアームは、146.5(MM)
(下図Aポイント)
 - フレームは、160(MM)
(下図Bポイント)

